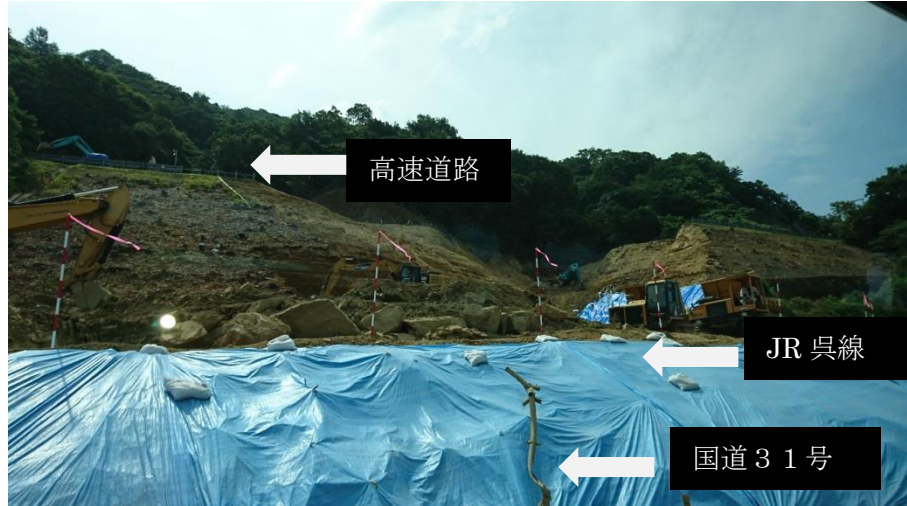


7/28 (土) 全日本民医連西日本災害ボランティア支援報告 社会活動部 浅野 宏岳

広島駅に集合し、ボランティア保険の手続きとビブスを受け取りました。これまでの参加者と違って、チャーターされたバスが待機しており、2台に分かれて、9時に坂町ボランティアセンターに向けて出発しました。

坂町までは現状国道31号(片側1車線)しか行く手段はありません。(並行して走っている高速道路・JR呉線は土砂崩れで崩落。国道は現在も一部が通行止めです。海水浴場の駐車場を急遽国道にして繋げている状態。写真参照)JR呉線も全線復旧するのは11月頃。災害が起きてから慢性的に渋滞が発生しています。



10時過ぎに小屋浦小学校近くで降りて移動。小学校にも土砂が流入していました(表面的な土砂は撤去済み)。そしてグラウンドには瓦礫の山と土砂の山であふれていました。(写真参照)



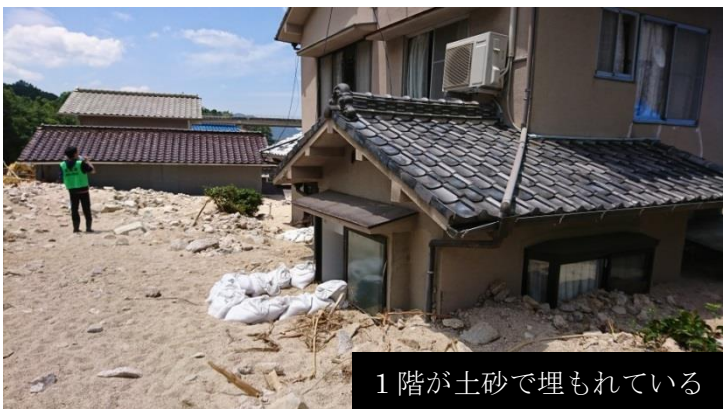
小学校から小屋浦ボランティアサテライト(元は公園)まで10分かけて移動。そこでスコップや一輪車をお借りしました。1班につきスコップ2-3個の支給です。あえて少なくしているのは頑張りすぎて倒れるのを防ぐためと休憩をしてもらうためだそうです。

町内会長さんよりどこでボランティアをするかの指示を受けてさらに移動しました。3週間経過して泥は乾いていますが、風が吹くと砂埃がま



い、マスクで鼻と口を覆わないとせき込み、メガネをかけていても砂埃で目が痛くなります。

また、土砂は1メートル以上堆積しており、1階部分は土に埋もれています。(写真参照)



1階が土砂で埋もれている

10:30 くらいからボランティア活動を開始。活動したお宅はすでに何回かボランティアが活動し、家具はなく、床も剥がしてある状態でした。最初に行ったのはキッチンの流し台をはがすことでした。男性 4-5 人がかりで体重をかけながら剥がしました。一輪車も地面が平たんではなく土砂に埋もれるため運ぶのも苦労します。

その後、床下の泥だしと土嚢運びを行いました。「10 分作業・10 分休憩」と指示はありましたが、酷暑の中の作業は体力を奪われます。1 時間くらいの作業でしたが汗だくになりました。

12:20 には作業を終了。作業をした家の方から「手伝ってくれて助かった。ありがとうね」という言葉をかけてもらいましたが、活動時間が少なく申し訳なく思いました。



その後、小屋浦ボランティアサテライトに移動。町内会長さんより民医連にむけてのお礼と被害状況の報告がありました。「被災直後は真っ暗で悲観していた。少しずつ片づけが進み、徐々に前を向こうという気持ちになってきている。ボランティアが行きやすいように渋滞緩和の要請を行政に行っている。何かしらの案内をできると思う。」「台風が接近しており 16 時にはこのテントを片づけて小学校に避難しないといけない。被災直後で台風の被害がないことを祈っている」と治水・治山機能が崩壊している中で、台風接近で不安な気持ちでいるのが痛いほど伝わってきました。

帰りは小屋浦小学校から近くのスーパーまで歩いていきました。海に近い街ですが、川を伝って海まで土砂が流入しており、広範囲かつ直線で 2 キロ以上の土砂崩れが起きているのが分かりました。(写真参照)

広島民医連の方で災害が起きてからボランティア活動をしている方からお話を伺いましたが、地区の 9 割が被害を受けており、ほぼ全滅の状態。40 代女性がいまだに行方不明。若い人は引越をすることもできるが、高齢者の方は住み慣れた地域を離れることができないであろうと。

重機が入れる所は土砂撤去の工事をしていますが、道は細く重機が入れない地区の方が多いように思いました。家の中は重機では作業できません。土砂は 1 m 以上堆積しており、すべてを撤去するにはかなりの日数と労力がかかります。また、交通インフラが崩壊しており、地域の足が奪われるだけでなく、渋滞発生によりボランティア参加者の活動時間も奪われています。人手はいくらあっても足りません。継続的な支援が必要です。

